

第30回 (R2. 6)

ガッツ石松 男の肖像

「おしん」から「はね駒」へ

我が家の朝食は7時に始まります。NHKニュースを見ながら頂くのですが、昨年から7時15分になるとBSに切り替え、昔の朝ドラの再放送を見始めました。昨年は今なお世界で愛され続けている「おしん」が放映されていたのです。

「おしん」と言えば**小林綾子**ですが、私は成人後の主人公を演じ、繊細な心の綾を見事に表現した**田中裕子**に強く惹かれました。そして、脇を固めたのが元キャンディーズの**田中好子**と、隠岐出身の新進女優、**田中美佐子**。奇しくも共演した田中という名の三人の若手女優。この後それぞれ大きく羽ばたいていくことになります。

そして異色の存在は**ガッツ石松**。現代では絶滅危惧種となった、無骨で一本気な男を見事に演じて、ドラマの重厚な展開に一役買っています。

もっともあれは演技なのか、彼の地なのかよく解りませんが、芝居とは縁のない元世界チャンピオンを起用した**橋田寿賀子**さんの慧眼に敬服です。

この4月からは、後に魔性の女と呼ばれる**斉藤由貴**主演の「はね駒」。ここにも、あの**ガッツ石松**が主人公の叔父役で出演しています。イケメンとか、ちよい悪おやしなどは対極の、性根の座った人情味あふれる男を演じています。新聞もテレビもインターネットもコロナコロナの大合唱です。不気味な恐怖感の中で、不確かな情報に右往左往し、一喜一憂しながら浮足立つ私達。**ガッツ石松**演じる素朴だけれど土性骨が座わり、背筋の伸びた生き様が、今こそ求められているように思うのです。